

平成26年8月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.23K㎡)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,019	8,517	4,282	4,235	1	△ 3
2 千 石	3,411	6,725	3,379	3,346	26	40
3 内 山	4,929	7,163	3,861	3,302	0	△ 5
4 大 和	3,187	6,503	3,257	3,246	20	32
5 上 野	7,233	15,493	7,602	7,891	△ 3	△ 2
6 高 見	6,708	12,952	6,213	6,739	5	△ 2
7 春 岡	6,423	10,501	5,625	4,876	17	10
8 田 代	11,254	21,494	10,277	11,217	△ 3	39
9 東 山	9,695	18,998	9,264	9,734	0	5
10 見 付	4,280	8,268	4,146	4,122	△ 41	△ 60
11 星ヶ丘	3,328	6,559	2,944	3,615	△ 8	△ 22
12 自由ヶ丘	3,481	7,665	3,506	4,159	4	4
13 富士見台	6,360	15,579	7,213	8,366	4	5
14 宮 根	3,710	8,430	3,986	4,444	10	18
15 千代田橋	3,581	8,675	4,049	4,626	2	4
千 種 区 計	82,599	163,522	79,604	83,918	34	63
H25. 8. 1	81,863	162,825	79,218	83,607	△ 9	81
対 前 年 比	736	697	386	311	43	△ 18
名 古 屋 市	1,044,699	2,275,824	1,121,125	1,154,699	423	396
愛 知 県 (H26. 7. 1)	3,023,051	7,441,127	3,717,504	3,723,623	2,174	1,251

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	104	117	△ 13	1,015	939	76

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
昭和50年	168,861	平成 7年	148,847	173,598 (昭和50年2月1日)	
昭和55年	166,837	平成12年	148,537		
昭和60年	163,762	平成17年	153,118	これまでの最少人口	
平成 2年	156,478	平成22年	160,015	146,727 (平成11年4月1日)	

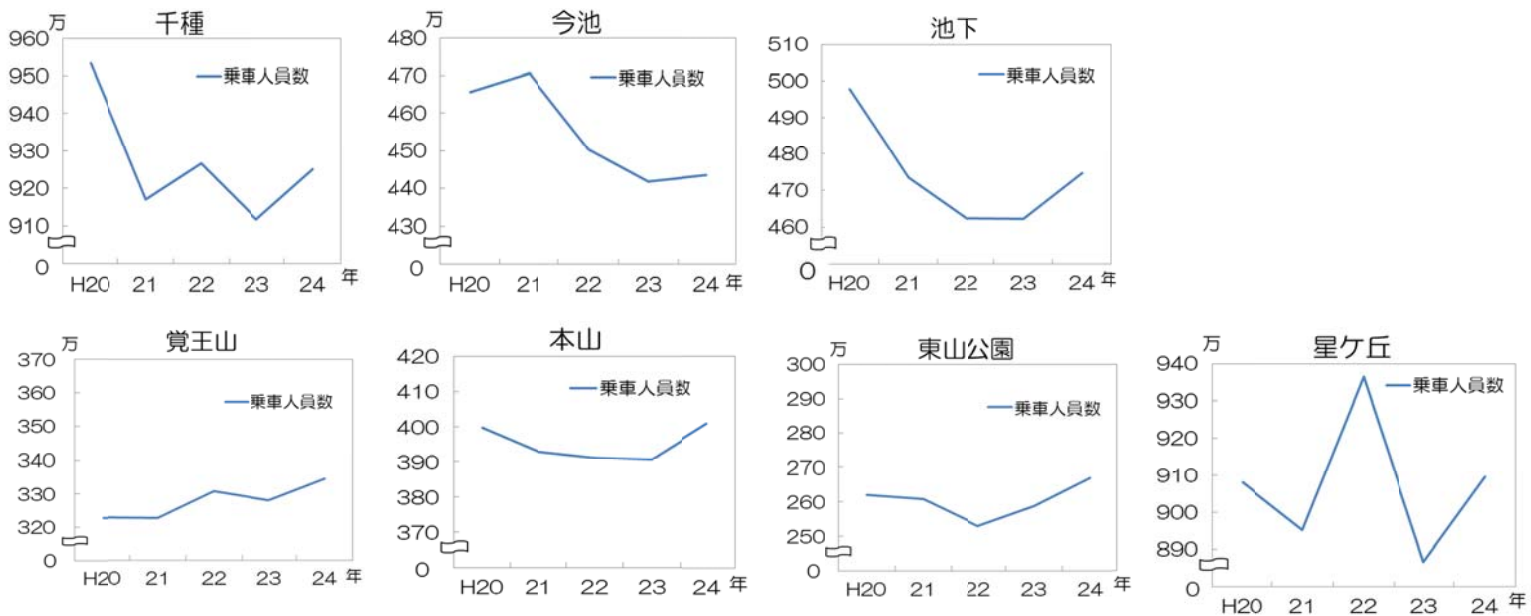
注) 世帯数と人口は、平成22年国勢調査結果を基礎として、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものです。(平成24年7月中の集計までは、毎月の外国人登録の異動数も加減して推計しています)

千種区内の地下鉄各駅の乗車人員の状況

平成 26 年 8 月 1 日現在の千種区の人口は 163,522 人となっており、世帯数は 82,599 世帯となっています。今回は、平成 25 年版名古屋市統計年鑑より、千種区内にある地下鉄各駅の乗車人数の状況を見てみます。

まず、東山線を見てみると、平成 23 年度から平成 24 年度にかけて、すべての駅で乗車人員数が増加しています（図 1）。平成 24 年度の乗車人員数の多い駅は、順に千種（約 925 万人）、星ヶ丘（約 909 万人）、池下（約 478 万人）であり、商業が盛んな地域や、学校の多い地域に位置する駅が目立ちます。また、千種区西部に位置する千種、今池、池下では、平成 20 年度または平成 21 年度が乗車人員数のピークとなっており、それ以後はあまり増加が見られません。他方、千種区中部から東部に位置する覚王山、本山、東山公園、星ヶ丘では、平成 24 年度が乗車人員数のピークとなっているところがほとんどであり、いずれも平成 20 年度の乗車人員数を上回っています。

図 1：千種区内の東山線各駅の乗車人員数（他路線の乗車人員数は含まない）



つぎに、名城線をみてみると、平成 23 年度から平成 24 年度にかけて、すべての駅で乗車人員数が増加しています（図 2）。平成 24 年度の乗車人員数は名古屋大学が最も多く（約 380 万人）、文教地区としての存在感を放っています。また、茶屋ヶ坂、本山では毎年度乗車人員数が増加し続けています。自由ヶ丘、名古屋大学では、平成 22 年度が乗車人員数のピークですが、全体としては増加傾向となっています。

図 2：千種区内の名城線各駅の乗車人員数（他路線の乗車人員数は含まない）

